

一般社団法人 自然環境共生技術協会
自然環境共生技術協会周年記念シンポジウム

自然環境共生技術の20年

【自然再生技術研究会】

自然再生技術研究会

澤樹 征司：株式会社建設技術研究所

2025年5月27日

本日の話題

1. 自然再生技術研究会の紹介

2. 主な研究活動の成果

研究成果 1 : 自然環境分野における**気候変動適応**に寄与する技術事例集

研究成果 2 : 自然との共生を目指して～全国の**自然再生の取組み**

研究成果 3 : 20年目の自然再生事業に関する**自主調査**

3. 今後の研究活動の方向性

1.自然再生技術研究会の紹介

◆活動目的：

- ・ネイチャーポジティブを掲げた「生物多様性国家戦略

2023-2030」に関し、とりわけ「基本戦略1 生態系の健全性の回復」への対応に向け、引き続き**自然再生に関する技術の集積、向上を図る。**

- ・特に**OECDを含む保護地域の管理の有効性の強化や生態系の劣化の抑制、劣化した生態系の再生、生態系ネットワークの形成**に資する技術に関する調査研究活動を進める。

1.自然再生技術研究会の紹介

◆活動メンバー(令和6年度：8社17名)

会社名	氏名
アジア航測株式会社	入江 潔 ・ 本部 星 ・ 藤田 萌永
いであ株式会社	松澤 友紀
株式会社KANSOテクノス	吉岡 憲成
株式会社建設技術研究所	澤樹 征司 ・ 後藤 楓太 ・ 斎藤 宏二郎
株式会社地域環境計画	中西 奈津美
日本工営株式会社	三好 文 ・ 前原 裕 ・ 井上 大樹 ・ 丸山 芳史
パシフィックコンサルタンツ株式会社	小菅 敏裕 ・ 松永 香織
プレック研究所株式会社	奥迫 優 ・ 神谷 美瑞基

1.自然再生技術研究会の紹介

◆活動実績

2003年（平成15年）1月 自然再生推進法施行

2004年（平成16年）7月 「社団法人自然環境共生技術協会」設立時に「自然再生技術研究会」設置

2007年（平成19年）11月 『自然再生事業ガイドライン『よみがえれ自然』』発行（右写真）

2009年（平成21年）12月 『広域的視点に基づく自然再生推進のあり方に関する調査検討』（環境省受託）を関西地区報告会で講演

2011年（平成23年）8月 『自然再生事業の評価手法に関する研究-釧路湿原を例として-』講演（NECTA研究発表会）

成果



1.自然再生技術研究会の紹介

◆活動実績

2013年（平成25年）10月 『カンボジア・タイ調査団派遣』

2013年（平成25年）11月 『アジア国立公園会議（仙台）でサイドイベント開催』（地球環境基金助成金）

2014年（平成26年）3月 『自然再生事業手引書（自然再生基本方針改正案に対する対応策）』公表

2014年（平成26年）10月 『生物多様性COP12（韓国）』自主参加・『地球環境基金の平成25年活動から』を講演（NECTA研究発表会）

2019年（平成31年）3月 『自然環境分野における気候変動適応に寄与する技術・事例集』 公表（成果紹介1）

2022年（令和4年）3月 『自然との共生を目指して～全国の自然再生の取り組み～（新・改定）』（環境省受託：成果紹介2）

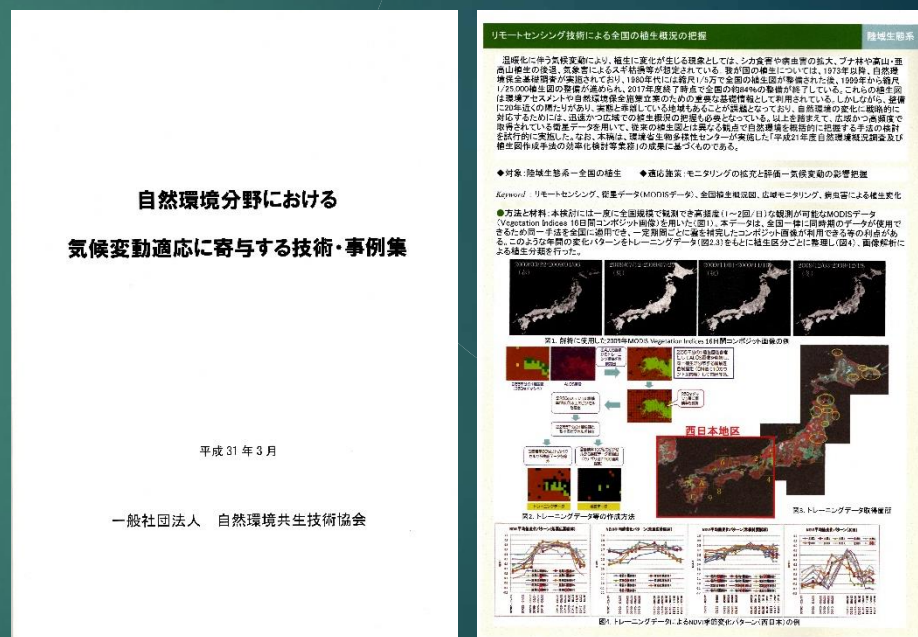
2024年（令和6年）『20年目の自然再生事業に関する自主調査』（成果紹介3）

2.主な研究成果の紹介

研究成果 1 自然環境分野における気候変動適応に寄与する技術事例集（平成31年3月）

- ・ 自然環境分野に関する気候変動適応に寄与する技術・事例について、陸域生態系、淡水生態系など「対象（場）」、「関連する気候変動適応施策」、「技術的視点」、「技術・事例」及び「紹介先」を整理
- ・ 会員企業の17事例を掲載

※NECTAのHP『NECTAライブラリー』に掲載中。ぜひご覧ください。



2. 主な研究成果の紹介

研究成果 1 自然環境分野における気候変動適応に寄与する技術事例集

対象	掲載した技術（1/2）
陸域生態系	1. リモートセンシング技術による全国植生概況の把握
	2. 高山生態系のモニタリング調査
	3. 既存環境情報を活用した日本全体の竹林分布推定
	4. 地球温暖化に伴う生育生息地変化予測（陸域・淡水）
	5. 広域連携による草原を活かした地域再生の取組
淡水生態系	6. 本州山岳地における湿地の分布変化の把握・予測
	7. 環境DNAによる温暖化指標種や希少種の分布変化のモニタリング
	8. 高層湿原の乾燥化を防ぎCO2の排出を抑制する
	9. 湿地の乾燥抑制用遮水堰と斜面防災用等の簡易土留めの『パイプウォール工法』

2.主な研究成果

研究成果1 自然環境分野における気候変動適応に寄与する技術事例集

対象	掲載した技術（2/2）
沿岸生態系	10.浅海域の地形モニタリング-航空レーザー測深器で推進を探る-
	11.気候変動に脆弱なわが国の砂浜・泥浜海岸の実態を把握する
	12.画像解析による藻場分布図の作成
	13.サンゴの被度分布を面的かつ経時的に把握
	14.連結式着床具によるサンゴ種苗移植
その他	15.防護・利用・環境及び持続可能性に配慮した海岸保全対策
	16.環境負荷最小限にする自然公園等施設の簡易基礎『ピンファウンディング工法』
	17.軽量化・長寿命化素材のGRP（ガラス繊維強化プラスチック）での環境負荷の低減

2. 主な研究成果の紹介

研究成果 2 『自然との共生を目指して～全国の自然再生の取り組み～（新・改定）』（令和4年3月）

- ・ 環境省（7事例）、地方公共団体（12事例）、自然再生協議会（15事例）が実施する自然再生事業の取り組みの状況について、それぞれ聞き取り調査や現地調査を通じて詳細に整理
- ・ 本資料は平成20年10月初版以降、3回目の更新版

※環境省HP『自然再生』に掲載

<https://www.env.go.jp/nature/saisei/relate/pamph/kyousei/>



2.主な研究成果

研究成果2『自然との共生を目指して～全国其自然再生の取組み～（新・改定）』

目次	自然再生事業の進め方	3
	環境省の取り組み（国立公園）	
1	釧路湿原 温帯生態系の保全再生、森林の保全再生	5
2	サロベツ 湿原の再生	7
3	小笠原 海洋島嶼特有の生態系の再生	9
4	大台ヶ原 森林生態系の再生	11
5	阿蘇 二次的草原の再生	13
6	石西蘆湖 サンゴ群集の再生	15
7	竜串 サンゴ群集の再生	17
	自然再生の担い手たち	18
	地方公共団体の取り組み（国立公園・国指定鳥獣保護区等）	
1	森吉山麓高原 森林の再生	19
2	蒲生干潟 干潟の保全・再生	20
3	伊豆沼・内沼 湖沼生態系の保全・再生	21
4	越前川 ヨシ群落の再生、内湖の再生	22
5	伊吹山 山地草原の再生	23
6	上山高原 森林の再生、草原の再生	24
7	竹ヶ島 サンゴ群集の再生	25
8	三番瀬 干潟・浅海域の再生	26
9	丹沢大山 丹沢大山地域の総合的な自然再生	26
10	小佐渡東部 トキの生息環境の確保	27
11	霧ヶ峰 草原の再生	27
12	八幡湿原 湿原の再生	28
	多様な主体による協議会の発着・呼びかけ	28
	自然再生推進法に基づき設立された自然再生協議会の取り組み	
1	荒川太郎右衛門地区自然再生協議会	29
2	麻遊水地保全活用推進協議会	29
3	多摩川源流自然再生協議会	30
4	神奈川保全活用推進協議会	30
5	檜原湿原地区自然再生協議会	31
6	権野川河口域・干潟自然再生協議会	31
7	霧ヶ峰・浦田村・沖原・戸崎地区自然再生協議会	32
8	くぬぎ山地区自然再生協議会	32
9	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	33
10	中海自然再生協議会	33
11	久保川イーハートブ自然再生協議会	34
12	多々良沼・城沼自然再生協議会	34
13	三方五湖自然再生協議会	35
14	高安自然再生協議会	35
15	北湖湖自然再生協議会	36
	SDGs 持続可能な開発目標を取り入れた取り組みの事例	36
	地域循環共生圏の考えを取り入れた取り組みの事例	37
	自然再生事業を環境学習の場に	39
	自然再生推進法の概要	41
	自然再生推進法（全文）	43
	自然再生基本方針（全文）	45

環境省事業実施地域



DATA
エリア：釧路湿原国立公園
所在地：北海道釧路市、釧路町、
標高：約100m、
面積：約1,000ha
種：H13

釧路湿原自然再生協議会

概要：湖域からの土砂流入等により、
乾燥化が進む釧路湿原の再生
を目的とする。

設立日：H15.11.15
全体協賛団体：H17.3.31（H27.3.31）

実施計画作成日：H18.1.31（暫定）

協賛団体（賛成）：北海道
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

●H18.1.31（暫定）釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、
釧路市、釧路町、釧路区、

再生課題：温帯生態系の保全再生、森林の保全再生

釧路湿原

再生目標

1980 年以前（ラムサール条約登録前）の温帯環境を取り戻すことを目指す。



釧路湿原は、約 25,800ha に及ぶ広大な
の湿原であり、そのうちの約 5,012ha が 1967
年に天然記念物に指定され、同一地域が 1980
年に我が国最初のラムサール条約に基づく湿
地として登録されました。その後、1987 年
には我が国で 28 番目の国立公園として指定（約
29,000ha）されています。また、広大な集水域
を有しており、そこには釧路湿原に特有のタン
チョウ、キタサンショウウオ、イトウ、カブス
グ群（ヤチボウス）などを含む多様な貴重な
野生動物植物が生息・生育しているほか、保水・
浄化機能や遊水池としての洪水調節機能、景観
資源・観光資源としての価値等を有していま
す。

しかし、近年の流域における経済活動の増
大に伴い、湖原面積が著しく減少するととも
に、流域からの土砂や栄養分の流入によって

湖原の乾燥化が進んでいます。また、それに
伴い湖原植生がヨシ・スグ群落からハンノキ林
へと急激な変化を見せています。1947 年に約
25,000ha あった湖原面積は、1996 年までの
50 年間に 2 割以上減少しました。このように、
温帯生態系の消失・劣化が進み、湿原そのもの
や周辺を取り巻く自然環境の再生が緊急の
課題となっていることから、地元住民、NPO、
専門家、地方公共団体、国など、多様な主体の
参画により自然再生協議会が設立され、湿原の
再生に向けた取り組みが進められています。



釧路湿原自然再生協議会（赤字：事務局）

タンチョウ



湖原面積の減少

1947年 1996年

国土交通省資料より作成

5

湖による下流への土砂の減少、カマヤや釣りなどによる利
用の増大、などによって減少しています。

自然再生協議会では、自然再生の対象区域を釧路川水系集
域の 5 市町村にまたがる 250,000ha としています。このう
ち、事業対象地は温帯生態系上の課題が顕著な地域、再
への取り組みのシンボルとなり得る地域といった観点か
ら、「成田地域」、「津島地域」、「釧路・茅渚地域」、「久保川・
島田地域」の 4 地域を選定しました。
現在、環境省では釧路川流域において再生事業を実施して
います。



土砂流出防止対策
土砂流出が懸念される箇所において、土砂流出防止対策を行う



自然林の再生
単一樹種の単一森林地において、広葉樹の割合を増やす取組を実施



シード・ラップによる土壌保護
の状況



杉による植林
杉による植林（北湖湖自然再生協議会）

2. 主な研究成果の紹介

研究成果3 『20年目の自然再生事業に関する自主調査』 (令和6年度)

【目的】

- ・ 自然再生事業の成果に関する各自然再生協議会の実感や課題認識の把握を通して、環境分野に関わる技術者として今後の取り組みの方向性を検討するための現状認識を行う

【方法】

- ・ 環境省自然環境局自然環境計画課の協力により、令和6年度に開催された自然再生協議会全国会議の事後調査アンケートに自然再生技術研究会の質問事項を追加し、回答結果を受領

【結果】

- ・ 自然再生協議会19団体より回答

2.主な研究成果の紹介

研究成果3 『20年目の自然再生事業に関する自主調査』

質問事項	
効果	①自然再生全体構想等の各協議会が掲げた目標について現在の達成状況
	②自然再生活動の中で、目標の達成状況を実感できる点
	③自然再生活動における達成状況が実感できる要因（活動の推進要因）
	④自然再生活動を通じて再生された地域の規模（エリア）
	⑤自然再生活動を通じて再生された環境の質について実感されていること
人材	⑥自然再生活動に参加される人について実感されていること
	⑦現状で自然再生活動に参加される人の主要な属性
活用	⑧自然再生活動を通じて再生された環境を地域資源として活用した経験
情報発信	⑨自然再生活動の情報発信でよく使われているツール
	⑩自然再生活動の情報発信で発信効果を実感されている方法
資金	⑪自然再生活動の資金の調達手段について主要なもの

2. 主な研究成果の紹介

研究成果3 『20年目の自然再生事業に関する自主調査』

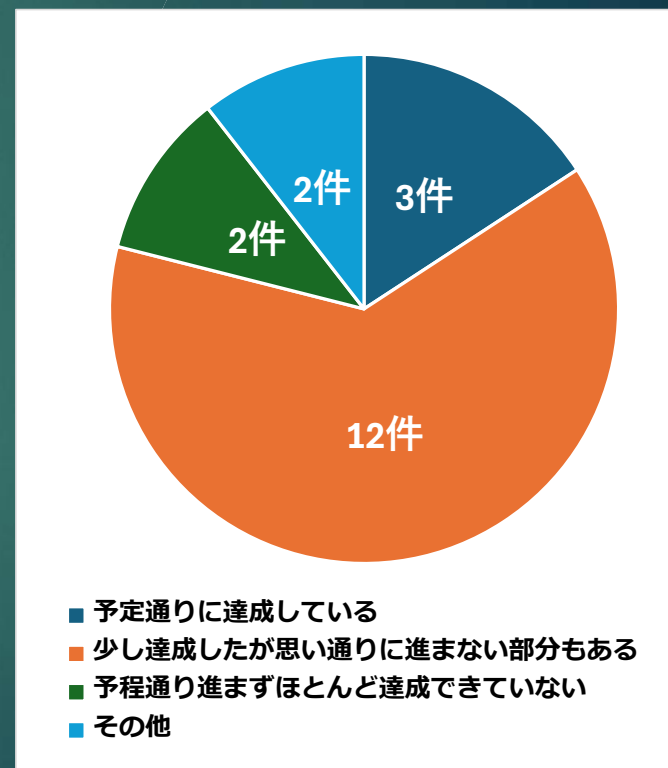
質問① 自然再生全体構想等の各協議会が掲げた目標について 現在の達成状況

【予定通り達成している】

- ・ ハード整備が完了し、モニタリンや保全活動などソフト事業に移行
- ・ 保全活動や普及啓発活動の機会が年々増加し、活動実績が着実に積み上がる

【少し達成したが思い通りに進まない】

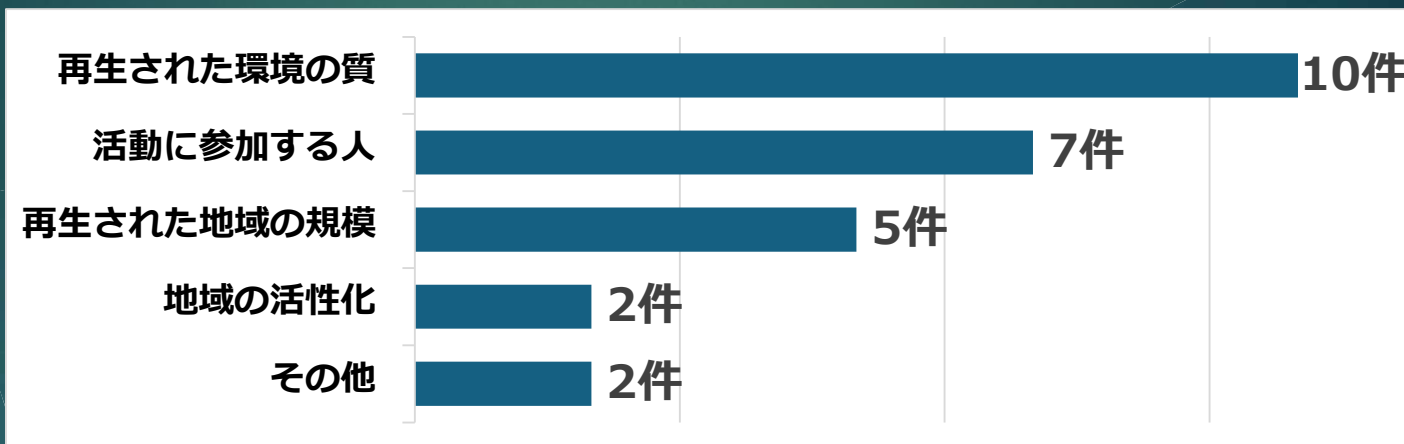
- ・ 目標達成に向けた進展はあるが、新たな課題への対応に追われている
- ・ モニタリング体制や科学的分析の不足により、活動の効果検証が困難



2. 主な研究成果の紹介

研究成果3 『20年目の自然再生事業に関する自主調査』

質問② 自然再生活動の中で、目標の達成状況を実感できる点



【再生された環境の質】

- ・ 外来種の抑制や在来種の回復、目標種の確認数の増加など生物多様性の回復を定量的に実感等

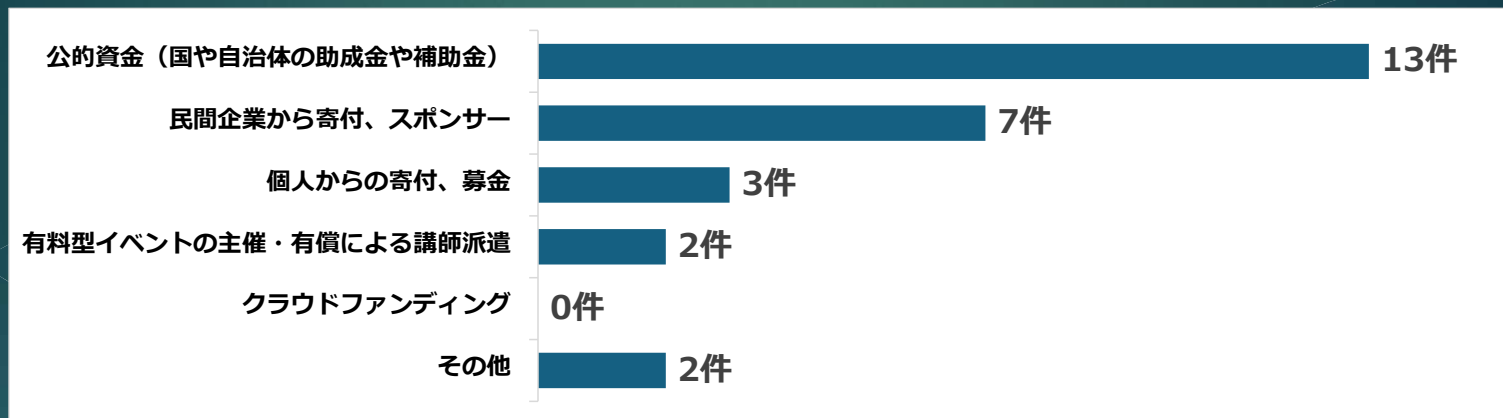
【活動に参加する人】

- ・ 登山者やトレイルランナー等従来とは異なる層の参加や地域の子どもの対象とした教育活動の継続化

2. 主な研究成果の紹介

研究成果3 『20年目の自然再生事業に関する自主調査』

質問⑪ 自然再生活動の資金の調達手段について主要なもの



【公的資金（国や自治体の助成金や補助金）】

- ・「国の補助金」や「ふるさと納税」を活用。県と市で予算を拠出

【民間企業からの寄付・スポンサー】

- ・企業との連携やCSR活動の一環として支援を受けている例が多い

【その他】

- ・公益財団法人からの助成制度の活用、企業からの委託研究費等

4. 今後の研究について

- ・「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律（**生物多様性増進法**：令和7年4月1日施行）」は、**地域や民間主体による生物多様性の維持・回復・創出を促進**するものであり、**過去に損なわれた自然の再生を目的とする自然再生推進法と補完**しながら取り組むことが、今後の自然共生社会の実現に向けて極めて重要
- ・自然再生技術研究会では次の視点も踏まえた研究活動を進める方針
 - 1.地域主体の取組支援の強化
 - 2.「自然共生サイト」等の認定制度の活用促進
 3. 30by30目標に向けた戦略的活用
 - 4.科学的知見と地域知の融合

ご清聴ありがとうございました。